

## 4058 パリ滞在・見感記：大阪～パリ・機中泊の楽しみ

今回のひとり旅は、移動型でなく、滞在型。パリという都市の定点ウオッチング。

期間は1ヶ月。12月中旬から1月まで。どんな時間の使い方をするか。

目的もある。先入観を持ちすぎると、旅が楽しくなくなる。今は、夢を楽しむ時間帯。

今回も、いろいろなハプニングに遭遇。それだけに思い出深い旅になった。

デンマークの作家、アンデルセンが言うように、

ひとり旅は、私にとっても、精神の若返りの泉であり、脚下照顧の機会。

時代や時流の今を体感することの大切さ、どんな出会い、気づき、発見があるのか楽しみ。

世間様との交流は現役。今の自由が有難い。時代遅れになり過ぎないように。

フランス・パリのカウントダウンは、2度目。



退屈などしている暇はない。この瞬間は、2度とない。

フットワーク良く、時間の活用。ひとり旅ゆえの面白さ、気づきと発見。

この時間帯、結構なトレーニングの時間でもある。世相を知る考動は、<sup>のちのち</sup>後々役に立つ。

無事なひとり旅をするための、久楽には、絶対条件の一つ。

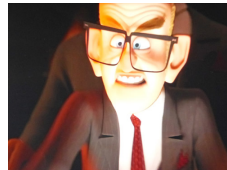
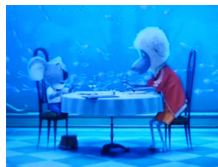
機中の時間帯だけでなく、乗機するまでの待ち時間も大切。

久楽流、海外旅のスタイルとして、交通機関に対して、不測の事態を想定して、

何時間も前に、到着するように心がけている。待ち時間の使い方。

この時間帯は、時代の今を知る、絶好の機会。空港では、時代の先端をいろいろ勉強できる。

広告物や土産物店、免税店、建築や装飾、設備等々、お国柄もわかる。



**機中**では、テレビのチェックは、世相や時流を知るためのツール。

どんな人がどんな番組を見ているのか。毎回、飛行機の手配は違う。今回はエアーフランス。

漫画や映画が面白く、その後、備え付けのマガジンを一通りチェック。

日頃、馴染みがないだけに、未知との出会い、新鮮で面白く、時間の経過を忘れる。

時間の使い方で、一番気を使うのは時差の問題。十分な睡眠をとると、旅の成功につながる。

パリ到着後、心身健康で、即、動けるようにするには、どうしたらいいか。

体を動かすことの大切さを痛感。何度も最高部でストレッチ。窓からの光景も楽しめる。

エコノミック症候群という言葉、有難いことに、現在まで無縁。

脱日常の瞬間の慣れが恐ろしい。グループの旅でなく、ひとり旅は、自己責任。

この飛行機、出発時、遅延。アテンダントさんからも、いろいろなニュースや情報を入手。

出発前、昼夜逆転の生活。1週間ではなく、1ヶ月。体調が最優先課題。

創意工夫の時間の使い方、置かれている状況把握が、身を助けてくれることになる。